

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200863
法人名	社会福祉法人 聖アンナ福祉会
事業所名	グループホームたかお
所在地 (電話番号)	和歌山県紀の川市貴志川町高尾194-1 (電 話) 0736-65-3380
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 8月 28日

【情報提供票より】(平成19年7月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.4人	

(2)建物概要

建物形態	併設 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日840 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 780円		

(4)利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	64 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立那賀病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりのペースを尊重したサービスを行っており、また利用者は過去の経験を活かして、職員に教えたり、食事の準備や後片づけなどの家事を行っており、利用者のいきいきした表情を伺うことができる。利用者の体調に合わせ散歩や買い物、外出など、車椅子の人にも対応し、活発な外出支援を行っている。利用者に対し、輪投げや「嚙下体操」などを行い、老化予防と身体機能の維持に積極的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘された運営理念の明示は、職員の目に付きやすい共同室の壁面に掲げている。家族に入居者の日常生活を定期的に伝える工夫(ホーム便り)については、家族が比較的近辺に住み来訪する機会が多く、日常生活を見て、職員とも状況を話し合える事情もあり、作成されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員がそれぞれ自己評価を行い評価項目を理解するようにし、それを持ち寄って協議し、ホームとしての自己評価票を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では出席者からホームの活動内容(利用料、外食介助、買い物、食事づくり、就寝・起床、ボランティアの活動、認知症への対応など)について多岐にわたる質問・意見が出され、また地域の諸々の行事の紹介も行われている。ホームとしてはこれらの意見をサービス向上を図る参考にしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理委員会を設置している。家族から意見や苦情などを聞いたときは、ホーム内で速やかに対応し、今後の運営の参考にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近辺の保育園の運動会に呼ばれ参加しているが、自治会や老人会等の地域活動には参加していない。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは「入居者ひとり一人の個性を大切に、笑顔で楽しく過ごせるように取り組む」という独自の理念をつくりあげている。	○	ホームに地域との交流が重視されることになったので、地域密着型サービスとしての役割を、これまでの理念に付け加えることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示された理念を職員は認識しており、日々の実践の中に活かすよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近辺の保育園の運動会には招待され見に行っている。自治会や老人会等の地域活動には参加していない。	○	自治会についてはすでに参加の話し合いを行っているところだが、老人会への参加についても、話し合いを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価を行う意義を理解しており、自己評価については各職員が評価表に記入し、協議してホームの評価表を作成している。また前回の外部評価の指摘事項についても改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催した運営推進会議において、ホームの活動状況を報告し、構成メンバーから諸々の質問や意見を頂いている。また、会議で出された意見を参考にしてサービスの向上を図っている。なお会議の記録は詳細になされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には、市と行き来する等の情報の交換は行っていない。	○	今後もホーム運営上の疑義があれば問い合わせなど、連携を密にし、運営やサービスの向上に努めるよう希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時や電話で、利用者の健康状態や日常生活の状況等を報告し、また行事の写真を渡す等おこなっている。	○	殆んどの家族が来訪するとのことだが、家族にも訪問したい事情もあり得るので、ホーム便りその他で、家族に日常生活・健康状況や行事等について報告することを検討されるよう期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決委員会を設け、家族から意見・苦情等があれば、速やかに対応するようにし、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はできるだけないよう抑制しており、異動や離職があった場合は、早く利用者のことをよく知り、馴染みの関係を築くように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度ホーム内で、日常業務に関連するテーマで研修会を行っている。外部での研修会にもできるだけ参加し、研修内容を復命している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に参加しているが、ホーム間の相互訪問による研修は行っていない。	○	今後は相互訪問を試み、他のホームの良いところを取り入れて、サービスの向上に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、予定者・家族がホームを訪れ、生活の状況を見学してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護するだけの立場でなく、利用者と一緒に過ごしながら、料理の仕方を教えてもらったり、特に若い職員は高齢者の経験に学んだりして、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望や意向を把握するよう心がけており、外出の希望や家に帰りたいという意向などが出された場合、できるだけ沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを開催し、職員の意見を取り入れ、家族の希望も反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に一度見直し、また利用者に心身の状況等の変化があったときは、その都度見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のふるさとなどへのドライブ、外食、酒造見学などの外出支援、また車椅子使用の利用者にも、リフト車を利用して外出の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望する主治医に、いつでも緊急時に往診や相談・指示を受けられる体制をつくっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は終末期のケアについての研修を受けたり、また入居時から終末期に対する家族の意向を話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけるような言動がないよう努めている。また記録等個人情報の取り扱いについても認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームにおいては基本的な一日の生活の流れがあるが、利用者個々のペースを尊重し、希望があれば散歩など、職員が随時付き添い支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別養護老人ホームの管理栄養士や調理師の指導のもと、利用者の食事の好みを聞き取り献立に取り入れたり、利用者と一緒に食事を作ったり、後片付けを手伝ってもらったりして楽しく食事をしている。	○	現在、職員は利用者と同じ食事ではなく、自分で持参したものを食べているが、利用者の食事を随時試食・味見するなどして、より良いものにするため検討されるよう期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況や希望に合わせ、毎日或いは各日に入浴し、またシャワー浴などで支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は経験や持てる能力に応じ、食器洗いや洗濯物干し、畑での野菜づくりなどの役割をしたり、外食や買い物に行ったりして楽しんでおり、職員はこれを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、ホームの中だけで過ごさずに、その日の希望で散歩に行ったり買い物に行ったりしており、職員は外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(朝6時頃～夕6時30分頃)は玄関の鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害に備え、避難訓練を年2回行っているが、地域の人々の協力への働きかけは、行っていない。	○	災害時に地域の人々の協力が得られるよう、日ごろの理解と働きかけに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事が栄養面でバランスがとれるよう管理栄養士から研修を受けている。また水分の摂取は、午前、午後、入浴後、夜間に補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関などには季節の花を飾り、共同室はゆったりして広く、壁には花火の押し絵を貼ったりし、季節感や生活感を出し、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、室内の明るさも適当である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、色紙細工や人形など自分の好みのものを飾ったりして、居心地よく過ごせるように配慮している。		